

釧路湿原自然再生協議会
第 27 回 再生普及小委員会
議事要旨

日時：平成 28 年 6 月 23 日 木曜日 13:30-15:30

場所：釧路市観光国際交流センター3 階 研修室 1・2

1. 開会
2. 議事
 - 1) 再生普及小委員会の活動報告
 - 2) 自然再生の普及のためのパンフレット作成について
 - 3) 自然再生関連行事におけるアンケート共通項目について
 - 4) その他
3. 閉会

事務局

挨拶

資料確認

委員

4 月より北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センターの所長となった。よろしく
お願い致します。

委員

4 月より北海道釧路総合振興局環境生活課長となった。水質での経験はあるが、自然系統
は初めてである。よろしくお願い致します。

委員

釧路自然環境事務所長となった。川湯と札幌で勤務経験があり、北海道はこれで 3 回目
の着任となる。よろしくお願い致します。

【議題 1. 再生普及小委員会の活動報告】

委員長

本日は特に自然再生普及のためのパンフレット作成について、色々なご意見をいただき

たい。まずは再生普及小委員会の活動報告に関して事務局から報告をお願いする。

事務局

資料 1-1、1-2 について説明する。

事務局

資料説明（資料 1-1）

委員長

行動計画オフィスの取り組みの報告、学校支援ワーキンググループの取り組みの報告をしていただいた。時間の都合上、圧縮して報告がなされているが、ホームページでより具体的なことが報告されているので参照していただきたい。ご意見、ご質問等ないか。

（意見・質問なし）

【議題 2. 自然再生の普及のためのパンフレットの作成について】

事務局

資料説明（資料 2-1）

前回の小委員会では、今年 7 月の完成を目指すというような説明をしたと思うが、出された意見を踏まえてしっかりしたものを作りたいので、今年度中に完成させることとさせていただきたい。

前回の小委員会でご意見が出ていた一般向けのパンフレットについては、全体構想の概要版が作られており、それと区別したものを作るのは難しいと考えている。ご意見いただきたい。

資料説明（資料 2-2）

パンフレット案についてレイアウトを考え再整理した。更に今後、デザイン会社への外注等、作業の中で校正、体裁の統一をする。

前回会議で、この文章量だと読まないというようなご意見があったが、事務局側としては専門的な場面での使用も考えており、ある程度の情報量は必要と考えている。

資料説明（資料 2-3）

くしろエコフェア等で釧路湿原の自然再生の紹介をするためのパネルを今後作成したい。内容は、先程示したパンフレットの内容を図表中心に整理したものと考えていただきたい。

本日欠席されている新庄委員長代理から、パンフレットはパネル程度のボリュームで作

成すれば良いのではないかというご意見があった。事務局側ではある程度科学的な内容も含めたいという考えもあり、そのあたりのバランスについてもご意見をいただきたい。

委員長

パンフレット（全 24 ページ）の作成、パネル（全 18 ページ）作成という 2 点の作成予定計画についての説明であった。

作成に関しこれまでの意見をまとめて、汎用性が高いものにしていきたいと考えている。意見として一つは、多少文字が多く小さくなくても正確な記述にし、中学生や一般の方々に読んでもらえる事を最優先にしたい学術的に詳しい方が良いというもの。もう一つは、簡単な優しい言葉を使った文章にし、写真は大きく、なるべく沢山詰め込みたいというもの。色々と意見はあるが、今年度完成というスケジュールで進めたい。

サブタイトルは、「湿原とともに暮らす未来の子どもたちのために」という言葉を当てた。釧路湿原の自然再生全体構想の「未来の子どもたちのために」というタイトルに「湿原とともに暮らす」という言葉を添え、このサブタイトルにしたいと考えている。

再生協議会の各小委員会の具体的な活動内容や、釧路湿原に関する活動、自然再生に関わっている民間も含めた団体についても紹介する。昨年度より小委員会には地域の産業、地域の町おこし、村おこしに関わって地域づくりを行うということが一つのテーマとなっている。

委員

小学校の高学年や中学生なら良いが、子どもには難しい。パンフレット 3 ページの「生態系サービス」の部分などは、色がどぎつくて見難い。

委員

いろいろな資料から抜き出した原案の段階なので仕方がないと思うが、全体に統一感が無い。こういう仕事は、専門のデザイナーに任せなければ、文字や色数が多く、非常に煩雑になってしまい何処を見せたいのかがわからなくなる。

ターゲットが専門家と子どもでは全く違う。分けなければ非常に難しい。ターゲットが曖昧であり、学校教育なのか専門的なものなのか、小学生と中学生では全く違う。

文字が多い。解説はこんなに要らない。中学生以上を対象とするならば、QR コードを付け、現場で各自が持参したスマートフォンやタブレットを使い QR コードから動画等が見られるようにすると良い。

委員長

ターゲットが曖昧なのは覚悟していたが、汎用性は必要である。予算が限られており 2 パターンは作れない。若い人が読みやすい工夫をしなければならない。

委員

事業の関係者が作るようになる。こういった物を作成する場合は、デザイナーに任せて口出しをしないと言うのが原則である。そうすると統一感のあるものが出来る。

委員

現在、釧路公立大学で似た様な事を行っており教材には良い。パンフレットを持ち歩く、現場で確認するという対象者が解らない。使いやすい部分もあるが、子どもたちや知識の無い方が理解するのは難しい。

委員長

最初の方針では中学生にも解るような言葉遣いや漢字を使用し、専門用語はなるべく使わず、かつ正確に伝えるということであった。

委員

例えば、パンフレット 3 ページの「生態系サービス」の中の、「水の保全」中で、「湿原が水を守る」という所はコメントを足せば良いが、「提言」「魅了」「貯留」は中学生レベルの言葉としては難しい。

委員

高齢な方達には難しいが、ペーパーを作るより湿原周辺の通信環境を整え、タブレットやスマートフォンで情報を取得できる形にした方が良い。ペーパーを作る時代では無い。

委員

普段、小学生を対象に解説を行っている。例えば、“初心者はこちら”、“専門的に勉強したい人はここ”を読むというように、色分けをするなどして読む側が選択して読める形にすると良い。

目次をつけ、最初に何処を読めば良いのかをわかりやすくする。パネル 18 ページの「釧路湿原自然再生実施箇所」の各箇所の横に、対応している内容のページか記してあるとわかりやすい。

委員長

本日欠席の新庄委員からは、パンフレット作成にはパネルに含まれている程度の文字数で良いのではないかというご意見をいただいている。文字を少なくするという事は、文字のフォントを大きくする、写真を増やす・大きくするという事を含む。

委員

印象として非常に実務的で実用的という感じを受ける。希望としては幻想的であり夢があるようなものが欲しい。これを読むことにより知識はつくと思うが心は打たれない。

私はいつも、屈斜路湖と摩周湖間の 391 号線を通って車で南に降りるが、もののけ姫などの宮崎駿アニメのような世界をいつも感じて走っている。摩周湖や屈斜路湖が一つの御神体のような形になり、下の方に向かって境内が広がるような巨大な神社のようであると意識して走ってくる。湿原の再生事業であるので湿原が集中的に注目されるのは良いが、上流地域とのセットで考えていくということは非常に大事である。

パンフレット案は良いとは思いますが、もっとロマンや夢があるような形が良い。子どもたちに見せた時に興味をひく前に引かれてしまうのではないか。

委員長

パンフレットの作成は各小委員会にそれぞれ資料の提供と原稿を依頼した。各小委員会、独特の書き方や資料の扱い方をしているということはあるかもしれない。「中学生が理解できるように」、「夢を持ったものに」という立場ではなく、専門的で正確な記録という資料が多い。正直、私も何とかできないものかと思う。

目次のようなものをどこかに入れることを検討する。パンフレット作成において変更できない点は、A4 の大きさで 24 ページの範囲に収めることである。もっとわかりやすく、楽しそうな写真を選ぶ等の変更は可能である。

委員

基本的には自然再生を紹介するというのが大きな目的であり、そのターゲットが中学生程度以上である。文字や表現などについては工夫の余地があっても、どうしても網羅的になってしまう。構成や内容についての大枠を変更するのは難しい。

委員長

パンフレットは「湿原とともに暮らす未来の子どもたちのために」というタイトルがつく。無意識に教育的な作りになってしまう。

委員

パンフレットの 20、21 ページの「自然再生から地域づくりへ」地域づくりという部分は、新たに立ち上げた地域づくり小委員会を意識されて作られていると思う。そうであれば、最後の部分に小委員会の紹介を付け加えていただけるとわかりやすい。

パネルは何処かに貼って使用するイメージだと思うが、パンフレットと違い誰が作ったものかがわからない。協議会で作ったとものであることと、連絡先を入れた方が良いのではないか。

委員

これまで専門的な業務として行っているため、資料の作りが小学生や中学生にとっては解りづらいものになってしまうと感じる。資料作成にあたっては、幅広い方々に理解されるような資料にしていかなければいけない。

委員長

専門的立場からと中学生程度に対する解りやすさを奇跡的に融合することができないか。

委員

パンフレットの 8 ページ以降で詳しい情報を検索する仕組みとなっているが、他の部分もビジュアル化して入口として読みやすい表現にしてみてもどうか。文字は最低限である方が見てもらえると思う。パンフレットの 6 ページの自然再生の目標の中に、目指すところが書いてある。「湿原と暮らす未来の子どもたちのために」がイメージできる画像のような物があればわかりやすい。

委員

何度も議論を重ねて、綺麗に色や写真が付いた完成品を見ると、釧路湿原自然再生協議会の活動事例を解説したバイブルとして使うのであれば最高だと感じる。しかし、統一感、夢が無いというのは私も感じている。湿原再生協議会の説明をするのなら良いが、「何のために」とか「緊急性」、「自然破壊が進んでいるから」等ということについては触れられていない。そのため、活動の説明のみに使われる資料になりそうな気がしている。読む人が、「自然、湿原を守るのは大切なんだ」、「このままだと湿原を現状のまま残すことはできないんだ」というような緊張感のあったものの方が良い。

委員

一番良い方法は中学生に見せて意見を聞くことである。この会議で議論していても進まない。

事務局

説明する側としては、他機関の自然再生事業について説明する際に、書いてあることを読めば説明になるような形が望ましい。

中学生に対して説明をすることはあまり想定しておらず、専門的な知識の無い方々でもご理解いただけるという意味で、「中学生でもわかる」としている。

委員長

実際に中学生に見せてみることを検討したい。

委員

達古武というのは、達古武湖なのか達古武沼なのか。基本的な名称の統一をし、協議会ではどんな扱いをしているのか等の理由を含めて是非入れて頂きたい。

委員長

今年度末までにパンフレットとパネルを作成、印刷し完成するという事で検討させていただきたい。

【議題3. 自然再生関連行事におけるアンケート共通項目について】

事務局

資料説明（資料3）

事務局の実施イベント以外でも、関連するイベント（民間含む）で同様のアンケートを実施し、今後のイベントで参考にするなどして情報共有したい。アンケートに追加したい項目、実施方法について意見があれば反映し、今後のイベントで使用したい。

委員長

アンケートはただ書いてもらうだけではなく、有効活用するために集計・分析しやすくして、アンケートに応じてくれた人の考えが浮かび上がるよう共通項目を考えた。それぞれの主催者でプラスアルファをつけることを想定し、A4に収まるような分量で作成したい。意見があれば取り入れて検討したいがどうか。

委員

このアンケートは、イベント毎の評価及び協議会が実施する全ての行事について適用するということになると思うが、共通化する以上はそれを使わないと意味がない。誰がどのようにとりまとめを行うかについて想定しているのか。

事務局

再生普及の業務の中で、これまで実施したイベントのアンケートについてはとりまとめ、報告書に掲載しており、事務局内では結果の共有ができています。他のイベントのアンケート結果も含め、それぞれの事務局内で参考にしてもらい、募集の仕方等を考えて利用してもらっているものと認識しています。

委員長

今のところ再生普及業務の範囲で限定される。それ以上の活動についてはここだけで決定することができないので、現時点では考えていないがそれで良いか。

小委員会内部での環境省が行う活動に関するアンケートは、この共通項目を基本とし、イベントごとのプラスアルファを含んだ形で進めるということで良いか。

(会場から異論出ず)

委員長

異論無しにつき、この形でアンケート用紙を作成する。

委員

協議会の際に、頂いた寄付金の使途について、ワンダグリンダプロジェクト参加団体から選ぼうという話になっていた。どのようにその団体を決定するのか伺いたい。

委員長

協議会での合意により、協議会会長、各小委員会の代表など数名で会議をして決定することとなっている。ワンダグリンダ等、色々な活動に関わってきた方々の中から、検討・審議した後、今年度2月頃に開催予定の再生協議会で発表する段取りとなっている。

委員

名簿に関して事務局へ苦言を呈したい。

このレジュメに載っている関係行政機関の所で、釧路開発建設部部長の氏名が前部長の氏名になっている。確認不足であり修正した方が良い。

事務局

名簿のミスについては以後このようなことがないように注意する。その他の項目について紹介する。

今後の予定について連絡する。7月26日にフィールドワークショップを開催予定、8月に学校支援ワーキングを開催予定である。次回の再生普及小委員会は12月開催予定。

委員

昨年と同様、未利用地を湿原に再生する取り組みとして、幌呂地区の湿原再生の現地見学会を実施する。日時は7月25日、定員は20名で、湿原再生現場の見学、ヨシの移植体験、外来種防除体験を予定している。申し込みは釧路開発建設部治水課で6月27日から受け付ける。興味のある方は参加して頂きたい。

事務局

自然再生については、見学会以外でもどのような活動を行っているかなどを質問される事も多い。また、最近では JICA 等の海外の利用者が増えていることから、その場で最新の情報を提供したい。そのようなことからパンフレットを作成したい。各委員へ意見をお伺いする場面があるが是非ご協力頂きたい。

本日予定していた議事は以上である。

=閉会=